

## 第4章 教育内容・方法・成果

### (2) 教育課程・教育内容

#### 【大谷大学】

本学は、点検・評価項目のもとに独自の評価の視点を定め、点検・評価を行った。その評価の視点を小見出しにして本章(2)の評価項目(2)を記述する。

#### 1、現状の説明

(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

##### 【大学全体】

文学部では「学位授与方針」に定められた6つの能力を身につけるため「教育課程の編成・実施方針」に基づいて、必要な授業科目を各年次に体系的に配当している(資料4(2)-1『履修要項2014』p.17)。

文学研究科では、「学位授与方針」に定められた4つの能力を身につけるため「教育課程の編成・実施方針」に基づいて、体系的に教育課程を編成するとともに、修士論文の作成や博士論文の作成のための研究指導計画を策定している(資料4(2)-1 pp.389-402)。具体的には【文学部】【文学研究科】の項に記載する。

##### 【文学部】

文学部では、「学位授与方針」に定めた6つの能力を身につけるための教育課程を設け、必要な授業科目を必修科目、選択科目および自由科目(現代総合科目、自己選択科目)に分け、これを各年次に配当し、講義、演習等適切な方法によって実施している。卒業のために4年間で修めるべき単位数および科目区分は「大谷大学学則」第19条に定め「卒業単位一覧表」を定めている(資料4(2)-2「大谷大学学則」)。「卒業単位一覧表」では、教育課程を「共通基礎科目」「学科専門科目」「現代総合科目」「自己選択科目」の大きく4つの科目群に分けて卒業所要単位を示し、更に「大谷大学文学部履修規程」第4条において「卒業単位配当表」を定め、科目および履修年次を規定している(資料4(2)-3「大谷大学文学部履修規程」)。

「共通基礎科目」には、文学部全学科共通で全員必修の科目を置いている。具体的には、本学の教育理念に基づく「人間学」、大学の学びへの接続を図る「学びの発見」、そしてグローバル社会において外国語の学力の向上と文化の多様性に触れるための「外国語」である。「学科専門科目」は、各学科、コースごとの専門的な学びを修得するための科目を開講している。「現代総合科目」は、「コミュニケーション系」「キャリア形成系」「自然生命系」「歴史文化系」の4分野に分類し、幅広い知識と教養を身につけるため、それぞれ4単位を履修することとなっている。「自己選択科目」は、教養の広がりや専門知識を深めるため、自学科のみならず他学科の科目も含めて自由に選択履修できる単位である。

科目群の中のそれぞれの科目には、履修学年配当を示し、段階的な履修ができるようになっている。学生は、学年配当に従って登録・履修している(資料4(2)-1 pp.25-37)。

また「副専攻制度」を導入し、学科やコースの枠を越えて興味・関心のある分野を体系的に学修できる仕組みを設けている。他学科の専門分野を第2の専門として、本格的に学ぶことができる。

共通基礎科目をはじめとする4つの科目群は、2012年度の教務委員会教務部会において一部見直しを行い、2013年度以降の入学生から適用している教育課程である。従来は、「共通科目」「学科科目」「セット科目」「自己選択ゾーン」という区分を設けていた。「セ

## 第4章 教育内容・方法・成果

### (2) 教育課程・教育内容

#### 【大谷大学】

「セット科目」とは、設定したテーマに関係の深い科目を「セット」としてまとめて開講し、学生は1つのセット内の科目のうち10単位を履修することで、まとまりのある履修をめざした仕組みである。専門分野の補完や幅広い教養を身につけるため、またキャリア形成に資するための仕組みとしていた。「自己選択ゾーン」は、各自の関心や興味に応じて他学科の科目などを自由に履修できる仕組みであった。教務委員会教務部会では、2013年度入学生から「副専攻制度」を導入することで、「セット科目」の役目を終えたものとし、より幅広い履修を促す仕組みとして、セット科目で開講していた科目を「現代総合科目」として4分野に分類、各分野から4単位履修するように改めた。また「自己選択ゾーン」については、学生からわかりにくいとの声があったことから、「自己選択科目」に名称を改めたものである。

また教務委員会教務部会では、2013年度からの改正に合わせて、コミュニケーション系で開講する語学の科目を「読解」「会話」「作文」「文法」「しくみと表現」の5種類に統一し、更に個人の力量に応じて科目を選択できるよう「初級」「中級」「上級」レベルの定義をそれぞれ定めた（資料4(2)-1 pp.96-97）。

文学部では、このほかに「教職課程」「学校図書館司書教諭課程」「博物館学課程」「図書館学課程」「真宗大谷派教師課程」「社会教育課程」「社会福祉士国家試験受験資格課程」「初級スポーツ指導員」「日本心理学会認定心理士」「社会福祉主事」などの資格取得に必要な課程の認定を受けて科目を開講し、社会や文化の発展に貢献することのできる人物の育成をめざしている。

#### 【文学研究科】

文学研究科では、「学位授与方針」に定められた4つの能力が身につくよう教育課程を設けている。文学研究科の授業科目は「基礎科目」「主要科目」「関連科目」の3つに区分し、基礎科目では専門的研究のための基礎力をつけ、主要科目で関連領域の研究を深め、関連科目で幅広い視点を身につけるといふ、それぞれ明確な目標を持って体系的に教育課程を構成している。講義を中心に演習や研究論文等を組み合わせ学問の基礎を身につけられるようコースワークの充実を図っている。修士課程では、基礎科目・主要科目・関連科目の3つの科目群それぞれに必要な単位数を設定するとともに、履修学年を設定し、体系的な履修ができるよう、『履修要項』に明示している。また、博士後期課程も「基礎科目」「主要科目」「関連科目」に区分して、それぞれに必要な単位数を設定しているが、基礎科目と関連科目については、本学大学院修士課程で修得した単位の認定が可能となっている（資料4(2)-1 pp.390-394）。

研究指導は、『履修要項』に論文提出のための手続や関係規程を明示したうえで、研究指導計画に基づき行っている。特に、博士後期課程においては、研究計画（例）を専攻ごとに『履修要項』に示し、研究活動の推進を図っている（資料4(2)-1 pp.396-401）。学生は、各自の目標に応じて提出した研究計画のもと学位論文を作成する仕組みとなっている。

### (2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

#### 【大学全体】

本学では、教育課程の編成・実施方針に基づき、文学部および文学研究科それぞれに、

## 第4章 教育内容・方法・成果

### (2) 教育課程・教育内容

#### 【大谷大学】

授業科目を開講し、各科目群のねらいや教育方法、履修方法等について『履修要項』および本学 HP に明示し、学生に周知している（資料 4(2)-1 p.17、pp.372-388）。具体的内容については、【文学部】【文学研究科】の項に記載する。

#### 【文学部】

##### （学士課程の教育内容の提供）

教育課程の編成・実施方針に基づいて、設置している授業科目を中心に、学士課程の教育内容の提供について述べる（資料 4(2)-1 p.17）。

共通基礎科目群には全学科共通で全員必修の科目を置いている。本学の教育理念に基づく学びを深めるために仏教の基礎を学び現代社会を生きる意味を考える「人間学Ⅰ」「人間学Ⅱ」、大学導入として「学習」から主体的かつ専門的な「学修」への接続を図る「学びの発見」、そして外国語の学力向上と文化の多様性に触れられるよう第 1 外国語と第 2 外国語を設置している。「人間学Ⅰ」では仏教思想を通じて「人間」に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養い、「人間学Ⅱ」では多様な人間観にふれ、自己を見つめ直し、現代の諸課題への関心を喚起できるよう指導し、DP6 の獲得に重点をおいている。初年次教育として第 1 学年の前期に開講している「学びの発見」においては、「読む」、「書く」、「調べる」、「伝える」技術を徹底して指導し、大学での学びの基礎を無理なく身につけられるようにしている。「第 1 外国語」では国際的な言語である英語を必修とし、習熟度別クラスとしている。「第 2 外国語」はドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語のうち 1 カ国語の履修を課し、他国語を学ぶことにより文化の多様性に触れられるよう指導している。それぞれ週 2 時間開講している。ここでは DP1 の獲得に重点をおいている。

学科専門科目群には各学科の専門の科目を置き、「学科導入」「演習Ⅰ～Ⅳ」「概論」「講義」「実践研究」「卒業論文」等に区分している。学科導入の「専門の技法」は第 1 学年の後期に開講している。各学科の考え方、学び方を身につけ、各自の専門における基礎的な研究方法を学ぶ。分析・考察を通して自らの見解を表現する力を養い、専門における基礎力を身につけられるよう DP2 の獲得に重点をおいて指導している。「演習Ⅰ～Ⅳ」では、DP2、DP5、DP6 の獲得に重点をおき、4 年間にわたる段階的な学びにより卒業論文作成に必要な探究能力を培っている。また、「概論」では、専門とする学問を概観するとともに、DP3 の獲得に重点をおき専門に関する体系的理解を図っている。「講義」では、基本的な課題や個別的な課題に関する知識を身につけ、専門における考察能力を高められるよう指導している。「実践研究」では専門に関する文献や技術にじかに接することにより、専門における問題を自らの課題として捉え、考察する訓練を行っている。「卒業論文」は、「学問」の集大成である。第 1 学年から培った、読み・書き・調べる力を土台に、各自が見出した研究課題について研究を進め、論文として形にしている。卒業論文作成の過程において、考える力、聞く力、伝える力など、人としての基礎力が培われる。

現代総合科目群は各自の学術的な興味・関心に見合う専門科目を自由に選択し幅広く学修するものであり、上述のとおりコミュニケーション系、キャリア形成系、自然生命系、歴史文化系の 4 分野の科目を置いている。コミュニケーション系で開講している語学の科目は「読解」「会話」「作文」「文法」「しくみと表現」の 5 種類に統一し、語学力を高めるとともに、多様な文化への理解や国際的なコミュニケーション能力を養うことを中心に構

## 第4章 教育内容・方法・成果

### (2) 教育課程・教育内容

#### 【大谷大学】

成している。各語学とも初級・中級・上級クラスを用意し、各自のレベルに応じた受講が可能となっている。キャリア形成系では、社会的に貢献するための幅広い知見を身につけるように構成している。自然生命系では、自らを取り巻く自然環境を知り、命やこころへの理解を深められるよう構成し、歴史文化系では、世界の歴史と文化を多角的に理解できるように構成している。

自己選択科目群では、他学科の学科専門科目や現代総合科目等から、関心や興味に応じて自由に履修し、教養を一層広げられるようになっている。

また、副専攻制度では、副専攻名に基づいてコアとなる必修科目と関連する選択科目を開講している。科目を提供している学科以外の学生のみ履修可能となっており、多面的な発想力や応用力を養うことができる（資料 4(2)-1 pp.38-48）。

#### （教育課程の適切性の検証）

本学では、教育課程および教育内容の適切性の検証にあたる組織は教育推進室と教務委員会教務部会であり、適切性の検証手続は以下のとおりである。

教育推進室は、教務委員会教務部会と連携をとりながら、必要に応じて各学科およびカリキュラム責任者の意見を聴取する。また、GPA 等のデータを収集し、検証を行う。検証の結果、教育課程を改正する場合は、

- ① 原案を教育推進室で作成
- ② 大学運営会議に報告
- ③ 各学科・カリキュラム責任者に提案し意見を聴取
- ④ 教務部会による了解
- ⑤ 教育推進室で決定
- ⑥ 大学運営会議に報告
- ⑦ 教授会に報告

となる。規程改正が伴う内容でも同様の手順とするが、規程の改正は通常どおり協議委員会、教授会に諮る。検証は年1回のペースとし、作業は教育推進室が中心となって行う。なお、この検証手続は2013年度に整えたもので、2013年度末に一度活動の方向性を検証したばかりである（資料 4(2)-4 「教育推進室会議議事録」）。

#### 【文学研究科】

#### （修士課程・博士課程の教育内容の提供）

文学研究科の教育は、「大谷大学大学院学則」第6条に規定したとおり、授業科目の授業と学位論文の作成等に対する研究指導によって行っている（資料 4(2)-5 「大谷大学大学院学則」）。

授業科目については、修士課程および博士後期課程ともに「基礎科目」「主要科目」「関連科目」に分けて開講している（資料 4(2)-1 pp.372-382）。

修士課程では、基礎科目として、専攻学問分野の研究に必要な専門知識と読解力の基礎を固めるために必修の「基礎研究(文献研究)」を開講し、DP1、DP2、DP3の獲得に重点をおいている。また、DP4の獲得のために、必修の「仏教の思想」を開講している。基礎科目では、講義科目を中心に、学問の基礎を確実に身につけ、コースワークの充実を図っ

## 第4章 教育内容・方法・成果

### (2) 教育課程・教育内容

#### 【大谷大学】

ている。

主要科目では、専攻学問分野の研究に必要な専門知識や問題発見力、読解力、表現力等を総合的に高め、修士論文に結実するよう必修の「特殊研究Ⅰ(講義)」「特殊研究Ⅱ(文献研究)」「特殊研究Ⅲ(演習)」を開講している。

関連科目は、学生の多様な関心や各専攻の特定学問分野の探求に必要な能力を高めるために開講している。ここでは、「特殊研究Ⅰ(講義)」「特殊研究Ⅱ(文献研究)」の履修単位を関連科目とすることを認めている。また、「外国文化文献研究(英語・ドイツ語・フランス語・中国語)」はDP3の読解力、表現力を高めるために開講している。そのほか、京都・宗教系大学連合単位互換制度下で開講される他大学院の科目についても関連科目の単位として認定している(資料4(2)-1 p.418)。

第1学年では主要科目の指導教員の演習(教育・心理学専攻は「教育心理学特殊研究」)、基礎科目の「仏教の思想」、および所属する専攻の「基礎研究(文献研究)」(教育・心理学専攻は「教育学総論」又は「心理学総論」)を履修することを必修としており、学びのフローを提示している。また大学院長期履修学生制度を設け、3年計画・4年計画といった学習形態も認定している(資料4(2)-6「大谷大学大学院長期履修学生制度規程」、資料4(2)-1 p.391)。

博士後期課程では、主要科目において、DP1、DP2、DP3の力を総合的に高め、博士論文に結実するよう必修「特殊研究Ⅲ(演習)」を開講している。そして、他の大学院から本学の博士後期課程に入学した学生のために、基礎科目ではDP4を高めるための「仏教の思想」を開講し、必修としている。

関連科目では、各自の関心と必要に応じてDP1～DP4の向上につなげ、研究を深めるための科目を開講している。各専攻主要科目中の「特殊研究Ⅰ(講義)」「特殊研究Ⅱ(文献研究)」の履修単位は、関連科目として認定している。また、「外国文化文献研究(英語・ドイツ語・フランス語・中国語)」はDP3の読解力、表現力を高めるために開講している。そのほか、京都・宗教系大学連合単位互換制度下で開講される他大学院の科目についても関連科目の単位として認定している(資料4(2)-1 p.418)。

研究指導については、修士課程・博士後期課程ともに『履修要項』に論文提出のための手続や関係規程を明示し、研究指導計画に基づき指導教員を中心に各専攻で行っている。博士後期課程では2009年度入学生から満期退学制度を廃止し、大学院委員会で論文提出のスケジュールの見直しを行うなど、円滑な学位授与に向けて改善を行っている。

#### (教育課程の適切性の検証)

文学研究科では、教育課程および教育内容の適切性の検証を行う組織は大学院運営委員会で、検証手続は次のとおりとなっている。

大学院運営委員会は、必要に応じて各専攻から意見を聴取し、検証を行う。検証の結果、教育課程を改正する場合は、

- ①原案を大学院運営委員会で作成
- ②大学運営会議に報告
- ③大学院委員会で決定

となる。規程改正が伴う場合は、大学院委員会で決定する前に協議員会に諮る。検証は年

## 第4章 教育内容・方法・成果

### (2) 教育課程・教育内容

#### 【大谷大学】

1回のペースで行う。なお、この検証手続は2013年度に整えたもので、2014年度末から行う予定をしている。

## 2、点検・評価

### ●基準4(2)の充足状況

本学では、教育目標に基づいて学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を定め、これらを踏まえたうえで授業科目を編成しており、同基準をおおむね充足している。

#### ①効果が上がっている事項

##### 【文学部】

##### (教育課程の改編について)

教育課程の改編については、「セット科目」から「現代総合科目」への変更により、コミュニケーション系・キャリア形成系・自然生命系・歴史文化系の4分野からそれぞれ4単位必修とすることになったため、学生が幅広く学ぶ仕組みを構築できた(資料4(2)-1 pp.96-97)。

##### (「副専攻」の導入について)

「副専攻」を設定したことで学生の学習到達目標の選択肢が増えた。副専攻認定希望者は第4学年の4月に指導教員と相談のうえ、書面にて「副専攻認定願」を教務課に提出することで卒業時に「副専攻履修証明書」が発行される(資料4(2)-1 pp.38-47)。なお、副専攻履修の意思の有無について、毎年度登録時に確認することとなっており、2013年度は42名、2014年度は89名が希望している。

#### ②改善すべき事項

##### 【文学部】

##### (科目の学年配当の適切性について)

科目の履修年次配当については、毎年各学科で見直しを行っているものの、「1~4」「2~4」など幅のある科目があり、授業の難易度がわかりにくく、学生の履修の順次性に課題が生じている。履修年次配当の整理が必要である。

## 3、将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

##### 【文学部】

##### (教育課程の改編について)

現代総合科目の4つの系列内の科目について、学生がどのように選択しているかの状況を教務委員会教務部会や教育推進室で検証し、それぞれの系列の開講科目について改善を重ねていく。

##### (「副専攻」の導入について)

「副専攻」の履修状況について、毎年教務委員会と教務課が確認し、状況に応じた改善策を検討する。

#### ②改善すべき事項

##### 【文学部】

##### (科目の学年配当の適切性について)

## 第4章 教育内容・方法・成果

### (2) 教育課程・教育内容

#### 【大谷大学】

科目の履修年次配当について、今後も引き続き授業の難易度や順次性を念頭に各学科で再点検し、改善を図る。

#### 4、根拠資料

資料 4(2)-1 『履修要項 2014』(既出 (4(1)-2))

資料 4(2)-2 「大谷大学学則」(既出 (序-1))

資料 4(2)-3 「大谷大学文学部履修規程」

資料 4(2)-4 「教育推進室会議議事録」(既出 (4(1)-11))

資料 4(2)-5 「大谷大学大学院学則」(既出 (1-5))

資料 4(2)-6 「大谷大学大学院長期履修学生制度規程」

資料 4(2)-7 「文学部時間割表 2014 年度」

資料 4(2)-8 「大学院文学研究科時間割表 2014 年度」